

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 串崎 利行



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成 26 年 4 月 4 日 (金) ～ 4 月 6 日 (日)

2. 視察又は訪問先

三重県 松阪市【宣長まつり】宣長の鈴～新しい一歩～

久保田市長、三浦次長 (教育部)、観光交流課

観光ボランティアガイドの会、佐野神楽社中

5 日 クラギ文化ホール (市民文化会館) 特産品販売応援と浜田市の PR、交流

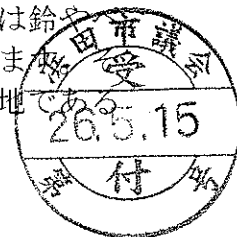
6 日 市内、縁の歴史探訪と宣長まつり (松阪城跡) での市民交流

3. 調査経費 34,170 円

4. 視察に至った経緯と経過

浜田市と松阪市の交流は 3 年前 (2011) 秋、浜田市観光ボランティアガイドの会が古事記編纂 1300 年を迎えるにあたり、歴史探訪で三重県松阪市を訪ねた事によって、今まで誰も気付かなかった「縁」を見出した。その縁とは、初代浜田藩主の古田重治は国替で伊勢の松坂 (三重県松阪市) より入封している。(1つ目の縁) また、12 代藩主の松平康定は国学を好み、伊勢神宮参拝の途中、松坂を訪ねて国学者の本居宣長に講義を受けている。宣長は自宅の書齋を鈴屋と名付けるほどの鈴のコレクターで、それを知った康定は隠岐に伝わる駅鈴のレプリカを作成し、和歌を添えて贈っている。(2つ目の縁) 宣長の影響もあって当時の浜田藩は国学が隆盛。儒臣の小篠敏は宣長を師と仰ぎ、20 人近い藩士らが門弟となった。その中には女性 3 人も名を連ねており、いかに当時の浜田藩に向学の気が漲っていたのかが分かる。現在も松阪市では JR 松阪駅前に、巨大な駅鈴のモニュメントを設置してシンボリックな存在となっている。台座が腐食し駅鈴を撤去するとの方向であったが、現在の山中松阪市長が浜田との縁を深く知ることにより、2013 年春、補正予算数百万円をかけて石垣風の台座を新調されました。また、松阪市内には鈴や

といったマンホールや造形物が数多く施してあり、市民に親しまれている。縁や発見があり、交流が始まり、「古事記伝」を著した宣長のゆかりの地



松阪市から講師を招いて記念講演会（2012年6月）をした事で、浜田市民も初めて松阪市との深い縁を知ったところである。今年2月には、さらに親交を深め、新しい歴史を求めて松阪市では「友好の会」が設立されています。（斉藤ボランティアガイドの会長、牛尾博美議員、山崎ていじ観光大使が総会に参加）

行政同市の交流は、両ボランティアの交流もあり2012年10月、前浜田宇津市長が松阪市を表敬訪問され、また、山中松阪市長も2013年8月、浜田市を表敬訪問された。郷土芸能である石見神楽、古事記に書かれた神話（石見神楽は本居宣長が研究した古事記に出てくる神話を取り入れている。3つ目の縁）の演目を【宣長まつり】で上演して欲しいと要請されたことによって、2013年4月、この度の2014年4月、久保田浜田市長も松阪市を表敬訪問され「両市の友好都市協定」を結べる様に検討していくことや、石見神楽を通じてまず市民同士が交流し、文化・産業・観光で交流できるように、両市長の決意表明の場でもあった。三

*佐野神楽社中はクラギ文化ホールで4演目（有明、見上山、恵比須、大蛇）
松阪城跡での舞台では2演目（塵輪、大蛇）を演じていただいた。



(松阪市駅前の駅鈴モニュメント)



(新調された石垣風の台座)



(マンホールに駅鈴の模様)



(浜田市の特産品販売と観光情報PR)



(石見神楽上演にみなさん興奮しています)



(神楽観賞後、沢山の市民の皆様をお見送り)



(両市長より浜田からは神楽面、松阪からは駅鈴贈呈)



(駅鈴模様のマンホール、友好の会より贈呈される)

所感

松阪市で4月5日～6日に行われた「宣長まつり」に、同僚議員の誘いで訪問しました。浜田市と松阪市の関係は、松阪城主の吉田重治が初代浜田藩主になるなど約400年前からの関係、また、12代浜田藩主松平康定が、本居宣長に「駅鈴」を贈り松阪市のシンボルになっている事、石見神楽は、宣長が研究した古事記に出てくる神話をとり入れている事等、歴史上の縁の深さを改めて知りました。住民の皆様も両市の関係をまだまだ知らない人も多いと感じ、今後のPRが必要だと思います。初日はクラギ文化ホールで石見神楽の公演があり、約1,200人の来場で人気の高さに驚き、パンフレットを渡しながらか浜田市で本場の石見神楽を観に来て下さいとお願いをしたところです。夕方より約100人参加のもと宴の席があり、両市長の熱い思いが伝わり、歌手「山崎ていじ」の挨拶もあり、友好の絆が深まったと感じましたが、松阪市の市議会議員は2名参加で少し残念な気が致しました。最後には、「駅鈴」がデザインされたマンホールの蓋が贈られ、市長が受け取り和やかに終わりました。当日は、少し肌寒く感じ、来場者は約2,500人と聞きました。浜田市の秋の農業際に比べると少し物足りなさを感じました。歴史で結ばれた友好の会が、絆を深め益々発展すれば、浜田市が少しでも元気になる事を願い、市議会議員として微力ながらお手伝いさせていただきます。